

由起佳…(タイトル)好きだから 第4話

由起佳…ごめん、美春に頼まれ事されちゃった

一路 ……というところで、由起佳はまだ学校に居残ってる。だから、今日は何もやましい気分になることはなく、単独行動ができるんだ

敬祐 ……やっときたな、色男

一路 ……と言って、敬祐さんが多少気まずさを感じながら座っている俺に、アイスマルクティーを差し出し、向かい合って座った。って何て言ったんだ？

一路 ……え、なに？

敬祐 ……一路、お前、店に来るの何日ぶりだ？

一路 ……あー、えと、5日ぶり

敬祐 ……な。少し前までは3日と空けずにきてたじゃねえか

一路 ……う、うん、まあ……

敬祐 ……なんだ、何か避ける理由があんのか？

一路 ……べ、別に避けてるワケじゃあ

敬祐 …………

一路 ……(消え入りそうな声で)少しあるけど

敬祐 ……フ

一路 ……え？ 何？

敬祐 ……嫉妬だろ？

一路 ……な、な、何で？

敬祐 ……やっぱりな。あのな、一路。お前がどう思ってるのかは大体察しが付いてるけどな、少なくとも俺は、ユキ……由起佳に対しては恋愛感情はない。これは覚えてろ

一路 …………

敬祐 ……お前も知ってるとおり、由起佳はあいつが幼い頃に両親が離婚して、奈津美さんが女手一つで育ててきた。だから人一倍、父親に対する憧れみたいなものは強いんだ、由起佳は。それで、歳が7つ上の俺に父親像を重ねてた。それをあいつは恋愛感情だと勘違いしてた。でも、そこまでのことには当時の俺は気付かなかったし気も回らなかった。だからこそ、しばらくあいつと一緒にいて、それに気付いた俺は、二人が元の関係に戻ることを選んだ。もちろん、あいつにはそんな込み入ったことは一言も言っていない。それは、少なくとも俺がそれをあいつに言ってやることは正しくないからだ

一路 ……どうして？ 敬祐さんが言うのが一番いいんじゃないの？

敬祐 ……いや、あいつが自分で気付くか、他の誰かが気付かせてやらなきゃならないんだ。俺じゃダメなんだよ

一路 ……分からないよ、そんなの

敬祐 ……そうだろうな、まだ高校生のお前位の年頃なら分からなくて当然だと思う。色恋でそういう分別が付くようになるのは俺くらいの歳になってからだろう。実際、俺もそういう色恋に対する分別なんかなくて、あいつの深層心理ってヤツに気付くことができなかつたから安易に……。まあそれはいい(苦笑)。とにかくだ。俺じゃない「他の誰か」の役回りは、一路、

お前がやらなくちゃいけない

一路 …敬祐さん、人の顔を指さしちやだめ

敬祐 …あ、悪い

一路 …（ため息を吐いてから）難しいことを……

敬祐 …念の為に訊いておくけど、お前たち、つきあってる訳じゃないんだろ？

一路 ………

敬祐 …どうなんだ？

一路 …つきあって……ない

敬祐 …意外と鈍感だからなあ、ユキは。それに、ずっと母親と二人で生活してきたから、もっと言えば奈津美さんの愛情と母性を一身に受けて生きてきたから、お前に対してどっちかかっていうと母親のような愛情を持って、世話の掛かる子供か弟のような感覚で接している。意識してそうしているのか、それとも無意識なのかどうかは判らんがな

一路 …そうだろうね。俺もなんとなく、少なくともかなり年下だと思われて気がしてる

敬祐 …そこだな

一路 …何が？

敬祐 …ユキに気付かせてやれる鍵は、ってそんなくらい顔すんな。ほら。

SE…グラスを置く音

一路 …敬祐さん、これ？

敬祐 …俺からの激励だ

一路 …俺、まだ未成年だよ？

敬祐 …はっ、今更何言ってやがる。ガキの頃からじーさんの晩酌につきあってたくせに

一路 …そうだけど。

敬祐 …グラス一杯程度のカクテルで悪酔いするようなヤワじゃねえだろ。飲め

一路 …うん。それじゃあ、一杯だけ……

SE…雑踏

一路 …結局3杯も飲んでしまった。意志が弱いぞ一路

SE…近づいてくる足音

由起佳…いーちろー！（一路の肩をたたく）

一路 …ああ、由起佳

由起佳…ん？ 薄いリアクション。どうかした？

一路 …別に何も（作り笑顔で）。用は済んだ？

由起佳…うん。あ、お礼にこれもらったんだ

一路 …何それ？

由起佳…富士見屋のチョコレートケーキ。あとで一緒に食べよ。一路も好きだもんね？

一路 …うん、まあね。でもいいのか？ 太るぞ？

由起佳…大丈夫ですー。私太らない体質だから

敬祐 .. 第5話に続く

由起佳 好きだから 第4話

敬祐 脚本・演出 結城偲斗 出演

一路 椎原一路、一路役声優

由起佳 皆澤由起佳、由起佳役声優

敬祐 棚田敬祐、棚田敬祐役声優

由起佳 以上でお送りしました